

第31期目録委員会記録 No.4

第4回委員会

日時：2007年10月20日（土）14時～16時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長，稲浜，木下，平田，古川，渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. AACR2改訂事業の現段階 ver.2（5ページ-A4，古川委員）
2. DCMI抽象モデル（Abstract Model）について（2ページ-A4，中井委員長）
- 2-1. DCMI抽象モデル2007-06-04仮訳（11ページ-A4，中井委員長）
3. 第31期目録委員会記録No.3（2ページ-A4，事務局）

[報告・連絡事項]

1. 機関リポジトリの動向について
 - ・木下委員があらたに担当。
 - ・JuNii2が学位論文に適しているとはいえないため、改訂の可能性あり。ガイドラインを作成し、平成20年度スキーマ修正の予定あり。
2. ISBD統合版
 - ・IFLA HPに掲載予定であるが、時期未定。掲載状況を随時確認のこと。

[検討事項]

1. AACR2改訂について

古川委員から資料1に基づき、AACR2改訂の現状について説明があり、質疑応答、意見交換を行った。

 - ・RDAは、2章がFRBR利用者タスクの識別機能に、3章が同タスクの選択機能に当たるとされているものである。
 - ・改訂の経緯を知るには、FAQを参照すると便利である。Prospectusには、最近の状況が記されている。
 - ・2008年7月最終案としての全体案が提示され、2009年に公開の予定である。
 - ・2007年5月に開催されたデータモデルミーティングが、どのような結果を生み出したのかは、現時点ではわからないが、DC Task Groupが組織されている。
 - ・2007年10月Joint Steering Committeeが開かれ、12月にRDA Part Bが公開の予定。
 - ・（質問）目録作成実務者からの批判は出ているのか。あまりないようである。Format（MARC21等）の改訂の予定も不明である。
2. DCMI抽象モデル（Abstract Model）について

中井委員長から資料2および資料2-1に基づき、DCMI抽象モデル（Abstract Model）改訂

とDCの現状について説明があり、質疑応答、意見交換を行った。

- ・ (NDLにおけるDCの現在) NDLメタデータ(2001公開)をAbstract Modelを意識した形で、改訂し、2007年DC-NDLとして公表した。国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(<http://porta.ndl.go.jp/portal/dt>)で使用。
- ・ DCのエレメントリファインメント(element refinement)とRDAのエレメントサブタイプ(element subtype)がほぼイコールである。なお、MODSにはサブエレメントがある。
- ・ 図書館界向けのスキーマであるMODSに比べると、DCには役割表示(role)や版(edition)がない。
- ・ DCは、構造的にはフラットであり、たとえば、日本語の読みとその漢字形とのセット関係を表現できない(DC-NDLではできていない。)なお、概念としてのsubpropertyは、存在する。
- ・ DCとFRBRはうまくかみ合っていないのではないか。URIで示せるものはURIで示すというのは、セマンティックウェブの発想である。DCでは、Titleのみがいつもliteralで記述できる項目で、そのほかはnon-literalで情報を記述することが可能。

次回の委員会の予定

12月8日(土)

以上